

墨の世界

東洋において代表的な黒色材料である墨。本展では、墨画や日本画のほか、硯箱や文臺といった工芸品など、墨に関する作品を幅広く紹介します。

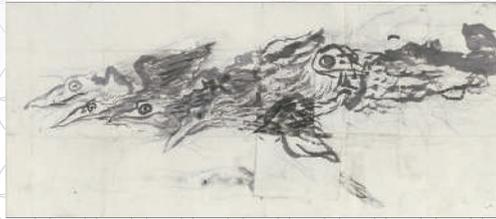
墨は中国から伝わり、日本では明治時代（二八六八―一九一一）に鉛筆や万年筆の輸入が始まるまでの約千年以上もの間、筆記用具として重要な役割を果たしてきました。

にじみやかすれ、ぼかしといった表現方法がある墨は、使用者によってさまざまな表情を見せます。水の量を変えることで濃淡にも幅ができ、墨一つでも、光や奥行きを表現することができ、そのため、芸術の世界においても多くの画家を魅了しています。

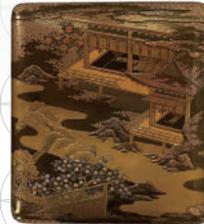
一方、墨と密接な関係にある硯箱や文臺といった調度品には、漆に金や銀の粉を使った蒔絵が施され、芸術品に昇華したものもあります。墨から生み出される多彩な世界をお楽しみください。



須田国太郎「猛禽」1946年 紙本墨画淡彩



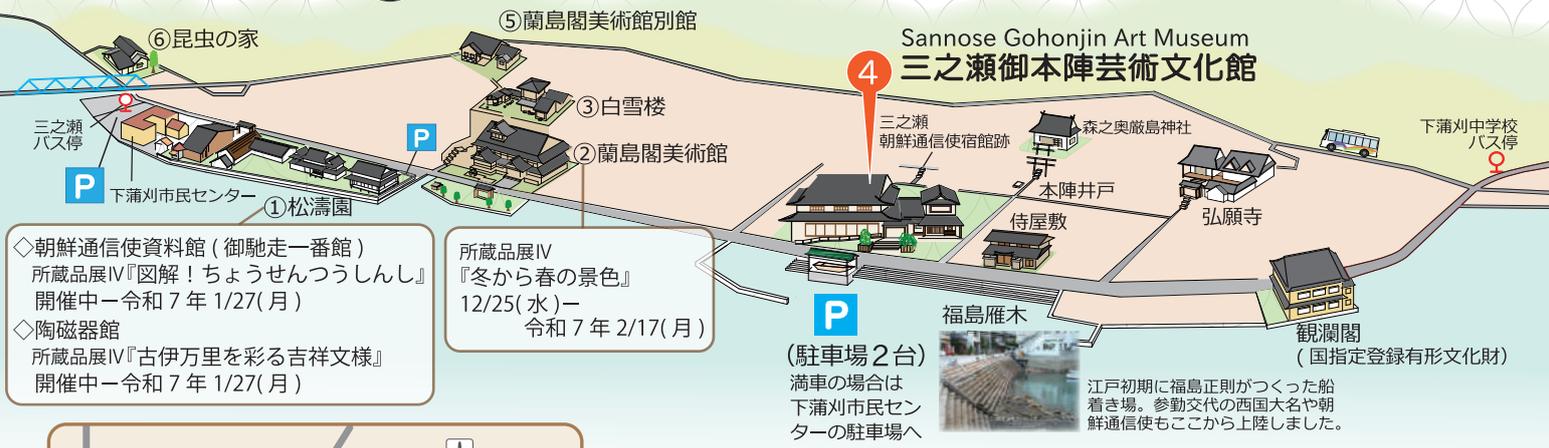
巖光「鳥」1938年 紙・墨



「平日地源氏蒔絵硯箱」漆



散策マップ



広島市内から車で約60分

呉市内より国道185号線を竹原方面へ。安芸灘大橋（有料）を渡った最初の島が下蒲刈島です。下蒲川市民センター前の無料駐車場をご利用できます。

指定施設にて1,000円以上ご利用の方に安芸灘大橋の帰りの通行券を進呈！
詳しくは、呉観光案内所 TEL:0823-23-7845 まで

呉市内から電車・バス利用の場合

JR呉線で広駅を下車。広駅前の道路を渡ったところにある「広駅前」バス停から瀬戸内産交運行の「営農センター・沖友天満宮行き」バスに乗車。「下蒲川中学校」または「三之瀬」で下車。バスは上下線とも毎時1本運行しています。

【バスに関するお問い合わせ：瀬戸内産交（株）TEL 0823-70-7051】



Instagram Facebook

